

紹介文：

あなたにとってのキキョウは
小さい頃から家族より親しい存在
いつも自分を支えてくれる頼もしい存在
なんでも受け入れてくれる優しい存在
今のすべてと引き換えても幸せにしてあげたい、大切な存在

キキョウにとってのあなたは
小さい頃から目が離せない存在
いつも努力をおしまず輝いている存在
なんでも受け入れたい愛しい存在
今のすべてを失っても尽くしたい、大切な存在

主従でありながら対等、家族でありながら恋人、そんな特別な二人のあたたかい物語をご堪能ください。

キャラクター設定：

主人公（聞き手）：

大学を卒業して、跡継ぎとして実家の館に戻ったあなた。
いつも自分のそばにいるメイドのキキョウに異性としての好意を抱いているが、これは今まで優しい姉のように接してくれていたキキョウになかなか告げられない思いだった。
大学卒業まで彼女ができず、祖母と会うたびに「相手を紹介する」と世話を焼かれる。
「今度こそキキョウに…！」と思いつつ、今までの関係が壊れてしまうという最悪の結果を恐れ、この一線は超えるべきなのかと葛藤が増していく日々。
ある日、祖母が珍しく強引に「お見合い」をあなたに押しつけてきた。相手が名門であるため、どうしても断ることができない。

キキョウ：

知的で優しい、よく気を配れる完璧な従者。
8歳の時、孤児院であなたの祖父に拾われて、そのまま館のメイドに。
年がそんなに離れていないので、他のメイドより、主人であるあなたに隔てなく接してくれた。いつの間にか、ふたりは主従でありながら、姉弟のような関係を築いてきた。
あなたに好意を抱いていることに気付いてから、メイドという立場にずっと悩んでいる。
「あなたのそばにいることがすべて」と言えるほど愛が深いが、ずっとそばにいたためあまり自覚していない。
普段は物腰柔らかくて優しい、包容力のある大人だが、あなたと一緒にになると、いつもより表情が豊かになる。仕事の間にたまに見せる乙女のような一面も、時々軽い冗談であなたをからかうのも、彼女の愛情ゆえ。
甘えさせるのは上手だが、甘えるのは下手。そのうち段々上手になるかもしれない。
一人称：私（わたくし）、キキョウ

ハギ：

館に務めるメイド少女。いつも周りに元気をくれるムードメーカー。今回は脇役。
歳はまだ若いがわりと鋭い。同時に年相応らしく恋バナが大好きで、周りの人の恋愛関係

については詳しい。

キキョウとは親しい関係で、いつも「キキョウお姉様」と呼ぶ。

一人称：ハギ、わたし

タイトル：

桔梗の言葉で君に語りかける

トラックリスト：

- 0 或る夜の出来事（耳マッサージ）（前日譚）
- 1 帰る場所（イントロ）
- 2 紺色の時間（耳マッサージ、耳かき）
- 3 夜が明けるまで（添い寝）
- 4 始まりの朝（幕間）
- 5 髪の香りが揺れる間（洗髪）
- 6 キキョウの言葉（添い寝）（アウトロ）
- 7 ——（おまけトラック）

台本説明：

1、()と【】の中の内容は指示、それ以外のすべてはセリフとなります。

()の中の内容はト書き、位置、演技の指示、効果音などの説明で、【】は複数のキャラクターが同時に登場する場合のみキャラクターの指示として使われています(トラック0と4)。

2、位置の指示（右側、左側、距離の遠近など）について、基本的に位置変更する際に出しているので、次の指示が出るまで、前の位置指示に従ってください。

3、指示中距離の遠近について、遠いから近い順で
遠い>やや遠い>通常距離>やや近い>近い>直近（耳元、出来るだけ近くお願いします）
の六段階となります。

以下は台本文本です。

0 或る夜の出来事

(SE：重い扉の音)

【ハギ】

(正面、正常距離)

あっ、おかえりなさいませ、ご主人様。あの、キキョウお姉様の体調ですが……

(左へ移動、正常距離)

(SE:二人の足音)

はい、お医者様によると、昨日より少しだけ回復に向かっているそうです。ですが、治るまでは、早くともあと一週間は掛かるそうです。

晩ごはんのあと、薬を飲んで休んでおられたので、発熱は一時的に抑えられたのですが、それ以降はやっぱり下がらなくて……

いえ、ハギもキキョウお姉様のことを心配していますから、看病のことは、ハギにお任せくださいませ。

ただ、お姉様が、本当に寂しそうに見えて……どうしたらいいのでしょうか……

ご主人様、なにかいい方法はございませんか？

「効くかどうかはわからない」、ですか……もしハギができることがあれば、遠慮なく仰ってくださいね。

(SE:足音停止)

キキョウお姉様のお部屋に到着いたしました。

(正面、正常距離) それでは、わたしは先に自室に戻るので、ご用があればいつでもお呼びください！

ハギは、キキョウお姉様が治ることを祈っています。ご主人様も、頑張ってください！それでは、失礼いたします。

(SE:部屋の扉の音)

【キキョウ】

(左側、遠い距離)

(弱しく声で) おかえりなさいませ、ご主人様。

今日も一日、お疲れ様でした。体調のせいでお迎えに行けず申し訳ありません。

(SE:足音、ゆっくり)

(正面、正常距離)

(苦笑い) 「ゆっくり休んだ方がいい」と言われましても、ここ最近キキョウはずっとベッドの上で休んでいますよ。

(SE:主人公が椅子に座る)

ついさっき熱は少し落ち着いたみたいで、ちょっとだけ起き上がってもいいかって、ハギちゃんにお願いしたんです。

(様子を察して) ご主人様はやっぱりお忙しそうですね……

今日だって、随分と疲れた顔をなさっていますし……

(自分を責めるように) 申し訳ありません、私、なにもできなくて……

(すこし躊躇う) そういえば……ご主人様は今日、お婆様が仰っていた「お見合い」に……行かれたはず……ですよね……

あの……これはメイドである私が尋ねていい事ではありませんが……結果は……どうでしたか……

(驚く) こ、断られたのですか？

(安心する) そ、そうですか……

(暗くなる) 早く、運命のお相手が見つかるといいですね……

(一気に緊張する) えっ！？もう見つかった……んですか？

(苦しそうに) なら、キキョウはご主人様と意中の方とのご縁を、お祈りいたしますね……

(暗い感じで、ゆったりと) ……はい、なんでしょうか、ご主人様？

意中の方のことですか……

(出来るだけ感情を抑える、硬い笑顔を浮かびながら) もしキキョウのアドバイスが必要でしたら、いつでも一

(驚く) えっ……私？
っ！ま、まさか……い、今のは、まさか……

(声を震えながら) も、もう一度、お願ひ、できますか……？

(途中から半泣き声で) ……っ！そ、その「好き」の意味は……男女としての……ですよね……

本当……ですよね……嘘や慰めでは、ありませんよね？

(感情がだんだんと激しくなる、ずっと半泣き状態で) 私……メイドなんですよ……ご主人様より年上なんですよ……

ずっと前から、当たり前のように一緒に居て、「当たり前」という状態に甘えて、自分の感情もわからずに、ご主人様を失いそうな時は一人で思いつめて……ずっとご主人様のそばに居たくせになにもわからないバカな女なんですよ……

いいのですか？こんな私を選んで？本当にいいのですか、ご主人さー

(正面、直近距離)

(キス、5秒) んー！？……ちゅ……あむつ……あつ……ちゅう……んん……むちゅ……うん……

はあ、はあ、き、キス……

これが、はあ、答え、ですよね……

(ぼんやりと呟く) 私、ご主人様と、キス、しちゃいました……

「待たせてごめん」って……そんなこと言わないでください、ご主人様はなにも悪くありませんから……

(すすり泣きはじめ) 全部私が、私のせいなんですから……

ごめんなさい、ご主人様……ごめんなさい……涙が、どうしても止まりません……

(SE:強く抱きつかれる)

(左側、直近距離)

(半端すすり泣きで) ご、ご主人様……こんなに近づいたら……うつっちゃうかもしませんよ……私がこんな体調な上、ご主人様まで倒れられたら……

も、もう……髪を撫でられたら……離れたくなるではありませんか……

ほ、本当に大丈夫ですか……？

(恥じらいながら) ……そう仰るのなら、私が落ち着くまで、そのまで、お願い、できますか……？

(安心する) はい、ありがとうございます……

(30秒の吐息アドリブ、息と涙が段々と落ち着く)

(SE:時々布の擦り音)

(深呼吸) すうーはあー

(落ち着いた声で) ご主人様……キキョウはもう大丈夫です……そろそろ、離れまー

(SE:右耳を触る音)

(驚く) ひやつ、突然耳の付け根を……うう……んっ……くっ、くすぐったいです。

「反応がエルフみたい」って……（わざとらしい呆れた感じで）ご主人様、最近ラノベを読みすぎなのでは？私、そんな尖った耳は持っていませんよ。

(わざと拗ねる) あと、ここが敏感なのは、ご主人様もご存知でしょう？小さい頃冷や水でイタズラをされたこと、私はまだ忘れていませんよ？

(安心する) っふ、ふふ……申し訳ありません、なんか一気に日常に戻ったみたいで、ご主人様の告白の雰囲気を台無しに……

え……？ 「やっと笑った」って、私のこと、ですか……？
私、ずっとそんな酷い顔をしていましたか……

でも、もうおしまいです。

(落ち着いた語調で、ゆっくりと) ご主人様、好きです。お慕いしております。これからもずっと、ご主人様と一緒に歩きたいのです。

これは、ずっとずっと前から、夢の中でも、ご主人様に告げたかったことなんです……やっと、やっとと言えました。

幸せです。幸せすぎて、もう頭の中がふわふわになって、風邪を引いたことも忘れてしまいそうです。

(軽く咳込む) ……どうやら体はまだ忘れてくれないみたいで……ご主人様も、このまま私を抱きしめ続けていると、本当にうつっちゃいますよ？名残惜しいですが、キキョウが治るまで、もう少し辛抱してくださいね。

(正面、正常距離)

えっ？ このまま一晩中私の看病をしたいって……いけませんご主人様、明日、お仕事もありますよね？

「休みを取れば大丈夫」って……

しかし、大事な休みの時間を私に費やして……

(恥ずかしがる) か、彼氏らしいこと……ですか……彼氏……ご主人様が……私の……な、なら……よ、よろしくお願ひ致します……ご主人様。

お布団の中にですか？ はい、よいしょっと……

(SE:布団に入る音)

(SE:お絞りの音、顔を軽く拭く)

(正面、近い距離)

顔を拭く時のご主人様の手つき、なんだかメイドさん一あつご主人様の場合は執事さんみたいです、ふふ。

「誰かさんの真似をしただけ」……ですか？左様ですか、ふふ、ありがとうございます。

(SE:拭く音続く)

(恥ずかしがる) あの……少し、ご主人様にお願いしたいことがあるのですが……

え？私の口調、ですか？

(困るような) 「もっと碎けていい」と言われましても……今までずっとこういう話し方でしたから、こっちの方が馴染んでいますし……もちろん、ご主人様のご命令であれば、私も頑張って変えますが……

やはり今までの方がいいですか？でしたらいつも通りで。

(恥ずかしがる) それでは、えっと……ご主人様、耳のマッサージ、お願いできますか？

あつ、マッサージといつても、ツボとかは気にしないでください。さっきのように、耳を触るだけで十分なんです……

(恥ずかしがる) その……私はご主人様に触れられたいだけなので……うう……

(緊張する) そ、それでは、左耳、上にしますね……はい、よろしくお願い致します……

(SE：耳を触る)

(緊張する) あつ……ん……

あつはい、えっと……もっと、リラックスして……ですか？わ、わかりました。

リラックス、リラックス……リラックス……

(小さい声で、ゴニョゴニョみたいに) リラックスできるわけないじゃありませんか……！いつもご奉仕をするのは私の方ですし……ああでもご主人様の手、大きくて気持ちいいですし……

(慌てて) あっ、なんでもありません！ご主人様、マッサージとても上手ですよ！はい、本當です、キキョウが保証します。

(SE：耳マッサージ)

(吐息アドリブ 30秒)

えっ？「餃子」をする？仰る意味がわかりー

(SE : ear cupping)

(悟る) ああーこのことですか。

ふふ、でも「餃子」って、可愛いらしい名前ですね。次回ご主人様にお耳のマッサージをする時、キキョウもやってみましょうか。

それでこの技、どこで覚えてきたのですか？

(わざと怒ってるような感じで) また「声の綺麗な耳かき屋のお姉さん」から、じゃないでしょうね？

(わざと呆れた感じで) はあーご主人様ったら、お耳のマッサージならキキョウがいつでもして差し上げるというのに、まさか音声作品にまでハマるとは……困りましたわ。

ふふ、でもキキョウもご主人様のことを言えませんね、私だって聞いていますよ。お耳のマッサージや耳かきを研究しているクリエイターさんもいるでしょう？親近感というかなんというか……

あっ……左耳、もう終わってしまいましたか？それでは、右耳を上にしますね。

(SE: 布の擦る音)

(恥ずかしがる) えっと……ご主人様、あ、あんまり、顔を覗かないでください……恥ずかしくて、多分赤く……なっています。

(更に恥ずかしがる) え！？耳まで真っ赤って……い、言わないでください、もう……

(SE : 耳マッサージ)

(吐息アドリブ 30秒)

(少し恥ずかしいながら) ねえ、ご主人様。あの……手を繋いでも、よろしいでしょうか？
はい、ありがとうございます……それでは私は腕をお布団から……

「病人にそれは駄目」、では……え？お布団の下で繋ぐのですか？

(SE : 手を擦り、暖める音)

ふふ、ご主人様はやっぱりお優しいです。

(SE : 手が布団の中に潜り込む音)

……手のひらを重ねるだけではなく……ご主人様、指を開いてください。

(少し恥ずかしいながら) はい、恋人繋ぎです……キキョウが待ち望んでいたのは、この瞬間です……ご主人様の傍にいられる資格を得たこの瞬間。

好きです、好きです、愛していますよ、私のご主人様。

(軽く咳込む) あっ、大丈夫です。寒くはありませんから、手を離さないでください……

こっちも「餃子」ですか？はい、よろしくお願ひします。

(SE: ear cupping)

おしまいですか？耳のマッサージ、ありがとうございます、お疲れ様でした一
凄く癒されました、お上手ですよ、ご主人様。

(咳込む) 申し訳ありません、なんか咳が止まらないようで……

(SE:布団を直す音、体温を測る)

(心配そうに) 熱、また上がってきましたか……？

(苦笑い) 早く治ればいいですね、本当に……

(小さい声で) はい……お喋りも控えます……

(SE : お絞りの音)

(小さい声で) 薬ですか？はい、そろそろ飲む時間だと思います……

(SE : 布団から座りに)

(水を飲む音) んぐ……ぐ……ぐ……ふー

(小さい声で) はい、飲みました。

(SE : 布団に入る音)

(小さい声で) ねえ、ご主人様、今夜、本当にずっとここに居るおつもりですか？
左様ですか。なら、せめてちゃんと休憩をとると約束してください。
はい、ご主人様の言葉、信じています。今夜のこと、キキョウは一生、忘れません。
これから、メイドとして、恋人として、ご主人様の為と、私たちの為に頑張りますから、
末永くよろしくお願ひ致します。

大好きですよ、ご主人様。おやすみなさいませ。

1 帰る場所

(SE：ドアをノック)

(正面、遠い距離)

ご主人様、メイド長のキキョウです。ただいま別館から戻りました。お邪魔してもよろしいでしょうか？

かしこまりました、では失礼致します。

(SE：ドアを開ける、閉める音)

(SE：近づく足音)

(正面、正常距離)

今日のお勤めはもう終わりましたか？お疲れ様でした。

(心配そうに) 体調の方はいかがでしょうか？一昨日や昨日、顔色があまり良くないと、当番のメイドから聞きましたが……

疲れただけですか。ご主人様がそう仰るなら、キキョウも少し安心しました。

最近仕事が増える一方で、お忙しいのはわかりますが、どうかご自分の身体も大事になさってください。

(正面、直近距離)

(甘やかす) ふふ、「わかってる」と言わんばかりの顔。でもほら、ご主人様、ここ。

(SE:目あたりを擦る)

目の下のくま。

ファンデーションで誤魔化そうとしても、私にはわかりますよ。何年もご主人様のそばに居るんですから。

(仕方がないなーって感じで) はあーダメですよ、ご主人様。身体を壊したら元も子もありませんから。頑張るのは良いことですけど、頑張りすぎると心配になります。休憩も、ちゃんと仕事のうちですよ。

でも、

(SE：おでこでコツン)

(正面、直近距離)

(申し訳なさそうに) こんな大変な時期に、ご主人様のおそばに居られず、申し訳ありません。さぞお疲れでしょう？

(優しい声で) ですが、今日からはもうなんの心配も入りません。キキョウが一

……いいえ。

(SE：腰をぐるりと回って、抱きしめる)

ご主人様のキキョウが帰ってきましたよ。

ふふ、このおでこコツンも、久しぶりです……

ねえ、ご主人様、もっと強く抱きしめてもよろしいでしょうか……？

ふふ、ありがとうございます。それじゃ、失礼しますね……

(強く抱きしめる) ぎゅー

(左側、直近距離)

(囁き) 会いたかったです、ご主人様……

(小さい声で) ご主人様も同じですか？ふふ、嬉しうれしいお言葉、謹んで頂きます。

もう少しこのままで居ても大丈夫ですか？

はい……ありがとうございます……

(穏やかな呼吸の音、小さめに、アドリブ30秒)

(正面、近い距離)

そう言えばご主人様、晩御飯までまだ少し時間がありますし、もし宜しければ、このあと、いつものように私とお外でお散歩しましょうか？ついでに久ぶりの耳かきもして差し上げます、いかがでしょう？

庭から観られる斜陽がすごく綺麗ですよ。

「夕日に照らされるキキョウが一番綺麗」、ですか？

ふふ、3ヶ月ぶりにお会いしたと思ったら、ご主人様は随分とお世辞が上手くなられたようです。

(わざとらしく拗ねる声) きっと、私がいない間に、社交場で言葉を巧みに駆使して、たくさんのお嬢様方を手玉にとって、寂しさを埋めていたのでしょうか？キキョウお姉ちゃんだって、ヤキモチはやくんですからね？

ふふ、そんな顔をなさらないでください、ただの冗談です。ご主人様のお気持ちは、この私が一番わかっていますから。

でも、たとえお世辞でも、キキョウは素直に嬉しいです、ありがとうございます。

私は疲れないのかって？

(手紙を読み上げるように) 「心配性のご主人様へ：お心遣いありがとうございます、キキョウは大丈夫です。」 ふふ。

今日はずっと車で移動していましたし、ちょっとお外の空気を吸いたいくらいです。

かしこまりました、じゃあお散歩、一緒に行きましょうか。

あっはい、なんでしょう？

手？手を繋いで、一緒に、ですか？
くすくす、承知いたしました。

それでは、キキョウの手を、しっかりと握っていてくださいね。

(優しい声で) ただいま、ご主人様。

2 紺色の時間

(SE : 秋、黄昏の音)

(左側、正常距離)

結構長い時間歩きましたね、ここのベンチで少し休みましょうか？

(SE : ベンチに座る)

(右側、やや近い)

(息抜き) ふう……紺色の空の下でご主人様と一緒にお散歩して、庭に座って館を眺めて……

私、本当に帰ってきたんですね。

(ぽつりと呟く) 出発する時は、紫陽花がいっぱい咲いていたのに、帰ったらもう桔梗と紫苑しか見えません。

季節は巡る……ですね。

あの……ご主人様、少し肩を借りても、よろしいでしょうか？
はい、ありがとうございます。

(SE : 頭が肩に乗せる)

(右側、近い距離)

ふう一こうやってご主人様の肩を借りるのは、告白の時以来ですよね……

私も驚きましたよ。まさかあのあと、急にお婆様から「3ヶ月間、別館のメイド長代理を兼任してもらいたい」と言われるとんは……

お婆様によると、別館のメイド長であるシオンさんが、出産の予定日が近いので、3ヶ月の休みを取られたそうなんです。別館の方は新人メイドが多くて、頼れる人がいなかつたようで、やむを得ず私に今回の出張を頼んだんだそうです。

でもその機会に、改めて私たちのことをお婆様に報告して、認めて頂けました。

そういうえばあのあと、ご主人様はお電話でお婆様に報告されましたよね。

「緊張する理由はないはず」と仰っていましたが、お婆様と向き合って「ご主人様のこと」をキキョウにお任せください」と申し上げるのはやはり緊張しました……

結局、お婆様があっさりと承認下さって、「結ばれたばかりのカップルに、水を差すようなことをしてごめんね」とまで言われてしまいました。そう、兼任の件です。

事情が事情ですし、私たちにはまだ時間がたくさんあるので不満はありませんけど、大変なのは、新しい役職に着任したばかりのご主人様ですよ。

(申し訳なさそうに) ご主人様にとって、この3ヶ月の間は、とても苦労されて、キキョウを一番必要としたはず。事情があるとはいえ、長年ご主人様にお仕えしている身で、そんな時期にご主人様のお傍に居ることができず……改めて、申し訳ございません。

メイドとしてだけではなく、恋人としても……ご主人様の方から勇気を出して、メイドである私に告白をしてくださったのに、辛い思いをさせてしまい、申し訳ありません……

ふふ、優しいご主人様のことだから、そう仰ると思った……「辛いのは自分だけじゃない」なんて。

(しみじみした口調で) ご主人様の仰る通りです。不満はありませんけど、ご主人様のそばに居られなくてやっぱり寂しかったです……

この3ヶ月間、キキョウは毎日ずっと、ご主人様のことを思っていました……ご主人が贈ってくださったこのペンダントも、眠る時さえ外したことはありませんよ？

だからご主人様からお電話がきた時、一日の疲れを全部忘れるくらい嬉しかったです。

私も自分の方から掛けてみたかったのですが、ご主人様のお仕事や休憩の邪魔になるかもしれないと思って、いつもメールで連絡しておりました。

(明るく) それに、メールって、なんだか恋文みたいではありませんか？「返事はいつ届くかなー」って考えながら待つのは、とてもロマンチックではありませんか、ふふ。

でも、そんなことより、今はまずこの3ヶ月間で溜めた辛い思いの倍、幸せにしてあげましょう。これは、ご主人様の為だけではありません、私の為でもあります。

(幸せそうに) 久しぶりに、ご主人様と触れ合える……そのことだけで私も満たされる気がいたします。

それでは、まずは耳かきから始めましょうか。

ご主人様、頭を私の膝の上に乗せて、仰向けになってください。

(SE：膝枕)

(上、近い距離)

はい、それじゃお耳を失礼いたしますね、最初はいつも通り、マッサージでお耳をほぐしていきます。

(SE：両耳マッサージ)

(吐息アドリブ5分、ループ素材)

如何ですか、3ヶ月ぶりの、メイド服越しのキキョウの膝の感触は？

気持ちいいですか？それはなによりです。

はい、私が前より「痩せた」……？

(わざと拗ねる) それは「前より太ももが硬くなった」という意味ですよね、申し訳ございません。

ふふ、意地悪な言い方ですみません。

そうですね……ちゃんと食べてはいたんですが、別館のメイド達と仕事するのが最初は慣れなくて、良いコミュニケーションをとるまでは予想以上の時間が掛かってしまいました……それでいつもより疲れたのかもしれませんね。体重は少しだけ減った気がしますが、食欲の秋というのもありますし、前より太ったらそれはそれで困ります。

でも、別館の方もいい子ばかりでしたから、時間を掛けて、みんなと親しくなって、それからはあまりこと変わりませんね。

あっ、「大変だった」と言うほどのことではありませんから、心配なさらないでください。

本当です、無理なんてしていませんよ。

(少し笑いながら) ご主人様、時々過保護ではありませんか？この前私が体調を崩した時もそう、仕事に向かうギリギリまで私のそばに居て、帰ったら真っ直ぐ私の部屋に来られて、「調子はどう？」とか、「薬は飲んだか？」とか……

これも「誰かさんの真似をしただけ」、ですか？あらら、一体どちら様でしょうか？ふふ。

(恥ずかしいそうに) でも、キキョウは嬉しいですよ……体調が崩れても、心が崩れなかつたのは、すべてご主人様のおかけです。

好きですよ、ご主人様のその優しさが。ふふ。

(SE：両耳マッサージ)

(吐息ループ)

思えば、まだ子供だった頃から、ずっとご主人様のお耳に触れてきましたね。

ご主人様はお耳のマッサージと耳かきが大好きだったので、いつも「キキョウお姉ちゃん、耳かきして～」とか「耳をなでなでして～」なんて私におねだりして。

(微笑みながら) あら、頬が赤くなりましたね、くすくす。恥ずかしいことなんてありませんよ、あんなに可愛かったのに。

耳たぶの触り心地の良さは、あの時からずっと変わっていないんです。いつまでも触っていたいくらい気持ちいいですよ。

(SE：セリフ相応の耳マッサージ)

ほら、こうやって、耳たぶを押しって——
痛くならないように引っ張って——
押しって——
また引っ張って——

こうしているだけで、キキョウも癒されますよ、ふふ。

それでは、少しだけ耳を覆いますね。
「餃子」、です。

(SE: ear cupping)

キキョウの手のひら、暖かいですか？
よかったです……じゃあもっとしますね。

(SE: ear cupping)

(優しい声で) あら、ご主人様、私の手に重ねてきて、また手を繋ぎたいのですか？
いいですよ。この3ヶ月間、ずっと一人で頑張ってこられたんですから、さぞ心細かった
でしょう？思は存分甘えてください……
キキョウがずっと、ここにいますよ。

(SE：手を繋ぐ音)

(恥ずかしいそうに) ねえ、ご主人様、指……絡めましょうか？

(SE：指絡め)

(恥ずかしいそうに) 私の指で、ご主人様の指をなぞって擦って、それから指の間に、私
の指を入れて……はい、ご主人様と恋人繋ぎです。

暫くの間、このままでいましょうか？お耳のマッサージは、少しだけお預けして。

はい、かしこまりました。

そう言えばご主人様、仕事の方は今はもう慣れてこられたようですが、最初の頃はどうで
したか？やっぱり大変でしたか？

左様ですか、ハギちゃんが色々と手伝ってくれたのですね、安心しました。

あの子、普段はドジなところもありますけど、いざとなったらすごく頼れる頑張り屋さん
なんですよ。ふふ、後であの子が大好きなケーキを買ってあげなきや。

私がみんなのお母さんみたい、ですか？

(わざと拗ねる) やっぱりご主人様はこんなオバサンの耳かきより、若いメイドさん達にチヤホヤされる方がお好きなんですよね、わかりました。

ふふ、すみませんご主人様、今日のご主人様があまりにも可愛いので、ついついからかつてしましました。

でも、そうですねーお母さんになりたいのは、本當ですよ。

(小さい声で、誘惑するように) もちろん、ご主人様との子供の……

(からかうように) あら、ご主人様、いまいかがわしいことを考えませんでしたか？

(小さい声で、誘惑するように) いいですよ、私は、ご主人様の望むままに、ご奉仕させて頂きますから。

(ゆっくりと) はい。望むなら、なんでも。

ふふ。

でも今はお耳のマッサージで我慢してくださいね。
残念ですが、手を解きましょうか。

(SE：両耳マッサージ)

(吐息ループ)

はい、お耳のマッサージはここまでにします。次は耳かきに移りますね、よろしいですか？
かしこまりました。

それでは、最初は左耳です。左耳を上にしてください、綿棒で、耳の縁からお掃除させていただきます。

(SE：布の擦る音)

(SE:耳かき)

(左側、近い距離)

ご主人様。

いえ、なんでもありません、ただご主人様を呼びたいだけなんです、いけませんか？

もっと、ですか？ふふ、承知いたしました。

ご主人様。

ご主人さまっ！

ご主人さま一

ご主人様～

(左側、直近距離)

(囁き) 愛しています。

(左側、近い距離)

ふふ、不意打ちはずるいですか？ そうです、キキョウは、すごくずるいのです。ご主人様の愛情を独り占めている、とってもとっても、ずるいメイドなんですよ。

(左側、直近距離)

(囁き) ご注意くださいね。

(SE:耳かき)

(吐息ループ)

それでは、お耳の深いところに、耳かきをしていきますね。

(SE:耳かき、深い)

(吐息ループ)

(左側、近い距離)

(ポツリと呟く) 別館での3ヶ月間、私は何度も何度もあの夜の事を思い出しました。

振り返ってみると、今でも信じられません。

ご主人様への恋心に気づいたときからずっと、これはいけないことだと、決して結ばれないのだと思っていました。この感情を、ずっと、押し殺してきました。

ご主人様は、私にとって、一番近くに居て、一番遠い人だと思っていたのです。

(現実に戻る) ……あっ！ 申し訳ありません、耳かきの最中にこんな話を……

えっ、聞きたい……ですか？

いいえ、今になって、言いたくないことではありませんが、ただこんな話、重いばかりで聞いてもなんの面白味もないと思います……

……左様ですか、私の想いを知りたいですか

(ちょっと感動してる) ……もう、どこまでもお優しいのですね、ご主人様は……

でも、話の続きをする前に、梵天で左耳のお掃除の仕上げをいたしますね……

(SE:梵天)

そして……

(アドリブ耳フー5秒)

はい、それでは、右耳を上にしてください。

こちらも、縁からお掃除をしていきます。

(SE：布の擦る音)

(SE:耳かき)

それでは、話を続けましょうか。

(やっと話す決意を下した感じで、それから延々と続く) 私とご主人様の間では、身分の違いを除いても、年齢の差があります。キキョウは年上で、ご主人様が小さい頃からずっと一緒に居ましたから、おそらくご主人様からは異性として見られていないのだろうと、ずっとと思い込んでいました。

だから、私はメイドという立場を受け入れて、ご主人様が運命のお相手を見つけるまで、一刻も長くお傍にいたい……そう願うだけで満足でした。「離れる日はいつか来る」という心の準備も、十分出来ていたはずだと思っていました。

ですが……私は甘すぎました。お婆様がご主人様にお見合いの話を持ち出した時、心がチクリと痛んだのです。最初は、時間が経てば大丈夫だと思っていました。しかし、その痛みは段々と広がって、そして思えば思うほどに、激しくなって。

ご主人様がほかの女性と一緒にいるところを想像するだけで悲しくなります。何より、自分がその場面の外側にいることが、どうしようもなく、耐えられないほど酷く心を傷つけるのです。その時、私はやっと気付きました……

ご主人様のお傍にいることが、私のすべてだと。

(SE:耳かき)

……もっと深いところを、耳かきしますね。

(SE:耳かき深い)

あの時は、私が気持ちを告げても、ご主人様に迷惑にしかならないと思っていました。私は、自分の気持ちを伝える前に、自分の気持ちを否定していたのです。だから、あの月明かりが眩しい夜に、ご主人様がベッドの前で、重い風邪で横になっていた私に、声が震えるほど強く思いを告げてくださった時は、私はもう、思考がぐちゃぐちゃになって、「これは夢ですか」って何度も何度も頭の中で繰り返して……

でも、すべての不安が、ご主人様の唇に触れた途端どこかに行ってしまいました。あのキスは、キキョウの一生の宝物なんです。ご主人様から「待たせてごめん」と言わされて、もう涙が止まりませんでした。

そのまま、ご主人様は私を抱き締めて、落ち着くまで慰めて、私のそばで夜更しまでして看病してくださって……

(丁重に) ご主人様。キキョウはここで、この館に、あなたを永遠に愛し続けることを、改めて誓います。

(重荷をおろしたみたいで) ……はい、以上が、キキョウの告白です。申し訳ありませんご主人様、こんな思い込みが激しい、重い女で。面白くない話でしょう？癒しの最中に持ち出す話ではなかったですね……

はい、なんでしょう？

(恥ずかしがる) っ！ご、ご主人様、突然愛しているだなんて言われても、き、キキョウは全然動搖しませんよ、年上をからかわないでください。

また「待たせてごめん」って……この前私が言ったじゃないですか、ご主人様はなにも悪くないと。私が思い込んでいただけです。

「愛した女性が苦しんでいる時に何もできなかつた」？

もう、一体どこでこんなセリフを覚えたのかしら……

それなら、ご主人様にしかできない償いの方法を教えてあげましょうか？そう、この願いを叶えてくださるなら……

そ、れ、は……

(左側、直近距離)

(囁き) 小さい頃のように、また一緒に寝てくれますか？
キキョウに、添い寝させてください。

(左側、近い距離)

はい～それだけなんです。ご主人様、ずっと恥ずかしがって一緒に寝てくださらないじゃないですか。恋人になる前はともかく、今なら……よろしいですよね？

ふふ、かしこまりました。それじゃあ早速、今夜からはじめましょう。

はい、今夜です。

(わざと悲しむ) それとも、今になっても、枕を共にするのはだめなんですか？

ふふ、では、今夜、お眠りになる前にご主人様のお部屋にお邪魔いたします。

それでは、こちらも最後に、梵天とフーで、仕上げをいたしますねー

(SE:梵天)

(アドリブ耳フー5秒)

はーい、耳かきはおしまいです。ふふ、ご主人様のこの名残惜しい表情も久しぶりです。

でも、耳かきは頻繁にやると耳の中の皮膚を傷つけてしまうかもしれませんので、少しの間、耳かきをするのは控えましょう。代わりに、お耳のマッサージは幾らでもいたしますから、遠慮なくキキョウに申し付けてください。

(SE : 膝枕から起き上がる)

(右側、やや近い)

(腕時計を見ながら、小さい声で) あら、もうこんな時間……

晩御飯もおそらく準備が終わったころでしょうし、私は先に台所の様子を見に行きますね。ご主人様はお部屋で休んでいてください、準備ができたら呼びに参りますので。

(SE : ベンチから起き上がる)

(正面、やや近い)

それでは、また後ほど、ご主人様。

今夜は、ご自分のお部屋で、キキョウを待っていてくださいね。

3 夜が明けるまで

(SE: ドアをノック)

(正面、遠い距離)

ご主人様、キキョウです、お邪魔してもよろしいでしょうか？

はい、失礼いたします。

(正面、正常距離)

ご主人様、約束通り、添い寝をしに参りました。

……？ご主人様？どうされましたか？

あっ、はい、いつものメイド服なんですけど、おかしなところでも……？

着替えないのかって？

もう、ご主人様、真夜中の館の廊下にパジャマ姿でうろうろするメイド長なんていませんよ。

(恥ずかしがる) それに……私のパジャマ姿を見せたのは随分前のことですし……その……似合わないかどうかは少し心配で……

(恥ずかしがる) やはり……見たい……ですか？

はい……かしこまりました。

で、では、メイド服を……脱ぎますね……

うう、ご主人様の前で脱ぐと、やっぱり恥ずかしいです……

よいっしょ……

(SE: 布の擦り音、靴を脱ぐ音)

(不安そうに) ど、どうですか？ご主人様。似合ってますか？それともキキョウの歳じやネグリジェはもう……

え？もっとご主人様の近くに……？

(恥ずかしがる) もちろん大丈夫、ですが……えっと、あまり、釘づけるように見ないでください……ご主人様のところは、明るいですし……

(SE: 靴なしの足音)

(正面、近い距離)

(不安そうに) ……えっと、何も仰らないと、その、恥ずかしい一

(SE: 抱きしめる)

(正面、直近距離)

きやつ、い、一体どうしたのですか？いきなり抱きついで……

「可愛くて華奢」…… (恥ずかしがる) ご、ご主人様より小柄なのは当然ではありませんか……

そ、そういう意味ではない？

「いつもこんな華奢な体で私を支えてくれた」って……

(つばを飲む) ……ねえ、ご主人様……

(少し声が震える) こんな言葉を聞いたら、幾らキキョウでも、歯止めは効きませんよ……

…

つまり、こういうことです……

(キス、段々と情熱的に) ちゅっ……ちゅっ……はむ、ちゅっ……んっ、ちゅっ……
ちゅ、ちゅ……ご主人様、ご主人様……！はむ……ちゅっちゅう、ちゅ……んちゅっ……
んっ……ふはーはーはー、はあ……ん……

(キスアドリブ 30秒)

(息継ぎしながら) ねえ、ご主人様、はあ……キキョウの目を、はあ、ちゃんと、見てください……

(息が落ち着く、優しい声で) キキョウが今まで頑張ってこられたのは、他の誰でもない、
全部、ご主人様のおかげですよ？

「自分はなにもやっていない」ですか？ふふ、ご主人様は、なにもしなくてもいいんです。

(とろけるように) あなたが、ここにいるだけで、キキョウの支えになるんですよ、ご主人様。

(キス再開) んっちゅう、ちゅ……はむ、んむ、ちゅう、ちゅう一
ちゅつ、ちゅつ、ちゅつ……ちゅう、んっちゅ、ちゅう……んちゅつ……
(キス、アドリブ 20秒)

(息継ぎしながら) はー、口の中も、ご主人様の味がする……素敵です……

(息が落ち着く) これは、帰ってから初めてのキス、ですね、ありがとうございます、ご主人様。

(少しく誘惑するように) それとも、「ごちそうさまでした」の方が、正しいでしょうか？
ふふ。

(正面、やや近い)

それでは、ベッドへ行きましょうか。ご主人様、ちゃんと歯磨きはしましたか？

ふふ、冗談です。懐かしいセリフですよね……小さい頃のご主人様は歯磨きが大嫌いで、
私が見てあげないと絶対しませんでしたよね。あの頃のご主人様、ちっちゃくてかわいい
お人形さんみたいでした。

でも今は、もうすっかり殿方のお体になって……

(左側、直近距離)

(囁き) さっき私とキスしたとき、ご主人様の舌が少しだけ、ミントの香りがしましたよ。

(小さい声で) ふふ、歯磨き粉もお揃いです。

(正面、近い距離)

さあご主人様、キキョウに手を。ふたりだけの夜に、一緒に寝ましょう……

(SE：布団に入る音)

(右側、近い距離)

灯り、消しますね。

(SE：灯を消す音)

すーはー……ご主人様と一つのお布団の中にいるのはいつ以来でしょうか……

あら、ご主人様、そっぽを向いているだけでは、添い寝になりませんよ？まだ恥ずかしがっているのですか？

ならば、私が後ろからぎゅーをしてもよろしいでしょうか？

(明るく) ダメと言っても聞きますん～ぎゅうううー

(SE：抱きしめる音)

(右側、直近距離)

(優しい口調で) いくら大人になったとはいえ、身体の触れ合いは必要なことなんですよ、疲れきったご主人様にとってはなおさら……

私のこの胸は、いつでもご主人様のために空けてあります。ですから、恥ずかしがらずに、昔のように私に抱きついたまま、一緒に眠りましょう？

(SE：布団の中の向き変更)

(左側、直近距離)

(ここからトラックが終わるまで、できるだけ近くお願ひします)

ふふ、素直になられたみたいですね。はい、よしよし～なんて～

(優しい口調、囁きで) ねえ、ご主人様……耳かきの最中に私が言ったことですけど、私の中では、ご主人様はとても素敵な人です。でもそれ以上に、ご主人様は私の大切な人です。だから、どうか私のことで自分を責めないでください、なんでも自分の責任にしないでください。

仕事の場でも、苦しい時に諦めたいのは、至極自然のことなんです。決して弱いからじゃありませんし、自分を責める必要もありません。

それと、一つだけ、ご主人様に覚えていて欲しいことがあります。それは、キキョウはいつまでも、ご主人様の味方だということです。何をかも無くしても、私は、ご主人様のそばにいることだけは誓います。だから、凹んだ時や投げ出したい時、もしくはただ話し相

手が欲しい時や甘えたい時、真っ先に、私に、キキョウに言ってほしいです。ご主人様の重荷を、少しでも分かち合いたい。

なぜなら、私は、ご主人様のメイドであり、恋人でもありますから。

(SE:布団の中のもぐもぐする音)

(優しい口調、囁きで) もし、ご主人様が、涙を流したいのなら……
私がこうして……ちゅっ(頬でキス) ご主人様の涙を拭いてあげますから、だから、遠慮なんていりませんよ……

もっとこうして欲しいですか？いいですよ。

ちゅっ……ちゅっ……

ちゅっ……ちゅっちゅ……

(頬のキス、アドリブ 10秒)

(優しい口調、囁きで) ご主人様……お慕いしております……
あなたの不安や虚しさ、痛みや怒り、その類のものは、キキョウが全部、全部、受け止めて差し上げますから……
だから……我慢しなくてもいいのですよ……

ちゅっ……ちゅっ……

ちゅっ……ちゅっちゅ……

(頬のキス、アドリブ 10秒)

もっとぎゅーって、抱きしめてもいいでしょうか？

ぎゅーー

(SE : 強く抱きしめる音)

頭も、もっとここに寄せてください……私がそっとご主人様を包みこんで差し上げます…
…

(心音、3分間、ループ素材)

(優しい口調、囁きで) 私の心音、聞こえてきますか？
安心する？なら良かった。ふふ、昔、こうやってご主人様を寝かしつけていたことを思い出しました……
あっ頭も撫でてあげますね……もちろん、もし眠くなったら、そのまま眠ってしまっても構いませんよ……

朝が来るまで、キキョウがずっとここにいますから……

(SE : 頭撫で)

(心音ループ)

4 始まりの朝

(SE : 秋の朝)

【キキョウ】

(正面、正常距離)

あっ、起きていらしたのですか？おはようございます、ご主人様。

ふふ、すみません、余りにもすやすやと眠っていらっしゃるので、起こしたくなくて、先に部屋に戻って朝の支度をしていました。

それで、どうでしたか、私の添い寝は？

ふふ、お気に召していただけたようで嬉しいです。なら、今夜もまたお邪魔しても、よろしいですか？

提案、ですか？はい、なんでしょう？

私の部屋をここに移す……ですか？

流石にそればかりは……メイドの身でご主人様の部屋に住むなんてこと……

(困るように)「同棲」と言っても……私、実は朝が弱いので……だらしない私を見てがっかりしませんか？

益々興味が湧いたような顔をしないでください、私はいつもご主人様の前で完璧でありたいんですよ？

恋人として、ありのままの私を知りたい……ですか……

(躊躇う)大事なのはわかっていますけど……やっぱり、なんというか、恥ずかしいです……

(少しきだけ拗ねる)もう、笑わないでください、こ、これも年上の矜持なんですよ。時々、ご主人様は意地悪なことを言うのですね。

(恥ずかしがる)いえ、だ、ダメじゃ、ありません……私だって出来る限りご主人様と一緒にいたいです……

わ、わかりました……それでは早速、荷物をまとめてまいりますね……

(シーン転換)

(SE : 荷物をまとめる)

(右側、正常距離)

(荷物をまとめながら、独り言)突然「同棲」と言い出すなんて、もおおおーご主人様ー！昨晩といい、今日といい、そんなにキキョウを甘やかすと、年増の駄メイドになってしまふかもしれませんよ……

(ここからの会話パート、特に指示がない場合は、ハギは左側で正常距離、キキョウは右側で正常距離となります)

【ハギ】お疲れ様です、キキョウお姉様！

【キキョウ】(驚く)ひやあ！？ハギちゃん！？部屋に入る前にノックくらいしなさいね！

【ハギ】(慌てて)あつも、もも、申し訳ありません！ドアが開いていましたので……

【キキョウ】あっ……私ったら、締めるのを忘れてた……

【ハギ】お姉様、そんなに慌てて一体どうしたのですか？また出張ですか？帰って来られたばかりなのに……

【キキョウ】い、いえ、出張ではないんだけど……

【ハギ】なら、どうして荷物をまとめているのですか？

【キキョウ】こ、これは、ご主人様のところに一

【ハギ】(考える)ご主人様の……ところに？(悟る)あっ……あああー！お姉様、おめでとうございます！(部屋から離れようとする、正常から遠い距離)今日の晩ごはん、ハギがお赤飯を炊きますね！

【キキョウ】あああーちょっと待ってハギちゃん！

【ハギ】(左側、遠い距離)はい。

【キキョウ】えっと、この事はね、みんなに暫く伏せたいと思うの。

【ハギ】(左側、正常距離)え？でも、もし朝お姉様がご主人様の部屋から出るところを他のメイドさん達に見られたら、すぐにバレちゃいますよ？

【キキョウ】それはわかるけど……とりあえず、今は心の準備がまだできていないから、内緒にしてくれる？

【ハギ】はあー、お姉様のこういうところも相変わらずというか……わかりました、この事は秘密にしておきますね。

【キキョウ】(安心する)助かるわ、ハギちゃん。

【ハギ】でも、条件があります。

【キキョウ】えっ？

【ハギ】お昼休みの時、ハギにご主人様とのことを教えてください。

【キキョウ】(恥ずかしがる)だ、駄目です！ハギちゃんにはこういう恋愛事情はまだ早いー

【ハギ】(離れようとする、左側、正常から遠い距離)やっぱり今日はお赤飯を炊きましょう！

【キキョウ】ちょっと待ってー！もうーわかりました！ちゃんと教えてあげるから！

【ハギ】(左側、正常距離)やったあ！へへー

【キキョウ】はあ……まさかハギちゃんにまんまとやられるなんて……って、いけない、もうこんな時間、急がなきゃ！(荷物をまとめる)内緒にしてね、ハギちゃん！

(SE：荷物をまとめる)

【ハギ】はい、絶対内緒にしますから、安心してください！その代わり、お昼休み楽しみにしてますね！

(SE：ドアを締める音、足音が遠くなる)

【ハギ】(正面、正常距離)はあ、お姉様もご主人様も、恋愛に対して本当にぎこちないというかなんというか……みんな密かに応援しているのに全く気づいていませんし、お婆様もさぞご苦労されていることでしょう。まあーこの様子なら多分大丈夫でしょうけど。めでたしめでたし。さて、わたしも気合入れて仕事しますか！

5 髪の香りが揺れる間

(SE：ノック音)

(正面、遠い距離)

ご主人様、キキョウです、お邪魔してもよろしいでしょうか？

(SE：ドアを開けて、締める音)

(SE：靴音)

(正面、遠いから正常距離)

こんな夜遅くまでお勤めお疲れ様です。

もう少しで十一時になりますので、緊急事項もありませんし、今日はこの辺で切り上げたらいかがでしょう？

「今終わるところ」ですか？なら、キキョウも手伝います。

(SE：物を整頓する音)

(右側、やや近い距離)

あら、ご主人様、シャンプーを買ってきたのですか？ふふ、これくらいのことはメイドたちにお任せいただければいいのに。

……よく見ればこのシャンプー、私が使っているものと同じですね。

(右側、やや近いから直近距離)

(わざと怒るように) どういうことですか？ご、しゅ、じん、さ、ま？偶然とは、思えませんよ。

(右側、やや近い距離)

(普段の口ぶりに戻る) もう、キキョウの髪がそんなにお気に入りなんですか？私としては、それはもちろん嬉しい限りですが。

ふふ、気付いてないと思いましたか？今朝、私が髪を手入れしている時のご主人様の視線が。

(慰めるように) 安心してください、ご主人様の恋人かつメイドですから、これくらいのことで引いてはいませんよ。むしろ自慢なんです、「私の髪が、ご主人様の視線を奪っていた」……なんて。

このシャンプーの匂いも好きですか？それなら、そうですねー
今日は一緒に風呂に入りましょうか？

あら、ご主人様、

(右側、直近距離)

顔が沸騰しそうに赤いですよ？

(囁き) またいかがわしいことを想像してしまいましたか？

(小さい声で) キキョウだって、ご主人様と愛し合いたいですよ……でも、明日ご主人様は早起きしなければなりませんよね？時間の余裕もありませんし、せっかちな終わり方より、じっくりとする方が……

(囁き) より楽しめるでしょう？

(小さい声で) だから、今夜は、お預けにしましょう。お詫びに、今週末は、ご主人様が飽きるまで、お相手をさせて頂きます……一日中部屋に籠ってイチャイチャするだけでも構いません。

(囁き) 今までできなかった分、私が全部受け止めてあげますから。

(小さい声で) ふふ、なにキヨトンとしていらっしゃるんです？ キキョウお姉ちゃんだって、我慢したんですよ？ 覚悟してくださいね、ご主人様。

(右側、正常距離)

今夜は、私がご主人様の髪を洗って差し上げましょう。もちろん、キキョウ愛用のシャンプーで。

ああ、それと、もしご主人様がよろしければ、キキョウの髪も洗っていただこうかしら。髪の手入れの方法などは、キキョウが手取り足取り教えて差し上げますので、安心してください。如何でしょうか？

ふふ、さっきの残念そうな表情はどこへやら。すっかり気力が湧いてきたようですね。それでは、片付けが終わったら、早速ご主人様のお部屋のお風呂場に行きましょうか。

(シーン転換：お風呂場)

(正面、正常距離)

ご主人様、お風呂の準備が出来ました。私は少しお部屋の整理をしますので、お先に入つてください。すぐにご一緒しますから、心配しないでくださいね。

(SE：ドアを締める音)

(SE：布の擦る音)

(SE：浴室の扉を開ける)

(SE：裸足音)

(SE：浴室の扉を締める)

(SE：風呂に入る)

(SE：水の音)

(左側、遠い距離)

ご主人様、キキョウです、入ってもよろしいでしょうか？

失礼致します。

(SE：浴室の扉を開けるから、締める音)

(左側、遠い距離)

お湯加減はどうですか？ 丁度良かった？ ふふ、ならキキョウもお邪魔しますね。

(SE：裸足音)

(SE：風呂に入る)

(SE：水の音)

(正面、近い距離)

(リラックスする) はあ一やっぽりお風呂は極楽です。ご主人様のお部屋の湯船は広いので、二人居てものびのびできますね。

しかしご主人様、私がお風呂場に入ってから、ずっと視線をそらしていますよ？

「邪念を払うため」？ふふ、申し訳ありません、ご主人様、キキョウに教えてください、「邪念」とは？

(SE：水の音)

(左側、直近距離)

(耳元で囁き) 視線が胸元に釘付けになるくらい、「邪念」になりませんよ。むしろ、そのために、タオル一枚でご主人様と一緒にお風呂に入ったんですから。

(左側から正面へ、直近距離) (主人公の顔を自分に向かうように) だから、真正面から、キキョウを見てください。(囁き) 胸の谷間あたりのほくろも含めて、ちゃーんと見てくださいね。

(軽くキス) ちゅつ、ふふ。

(SE：水の音)

(正面、近い距離)

改めて、ご主人様、今日も一日お疲れ様でした。

私の一日ですか？あまり変わりませんね。館の家事の予定をまとめてから、係のメイド達に仕事を割り振って、それからはご主人様のお勤めについて……でしょうか。スケジュールと仕事の確認、ご来訪されたお客様の応対やその他諸々。

(ちょっと恥ましげに) そう言えば、今日のお昼休みの時、ハギちゃんに根掘り葉掘り聞かれましたよ、「同棲」に関して。朝、荷物をまとめている時にハギちゃんに見られて、それから……

館にいる若いメイド達はみんな年頃の女の子だから、この手の話が大好きなのはわかるけど……

(ため息) はあ本当に、今時の若者には敵いません……ご主人様も気をつけてくださいね。

「別にいいじゃない」って……恥ずかしいものは恥ずかしいんですよ？ご主人様は、私たちの関係を館のメイド達に知られても大丈夫なのですか？

「むしろ全国に告知したい」？キキョウ、ご主人様のその余裕ぶりが羨ましいです。でもメイド達にからかわれても知りませんよ？ハギちゃんを筆頭に。

もう少しお湯に浸ってから、髪を洗いましょうか。私は先にシャワーの温度を調整しますね。

(SE：湯船から出る音)

(SE:シャワーの音)

(左側、正常距離)

(小さい声) うん、これで大丈夫。

ご主人様、髪を洗う準備ができました。さあ、ここに座ってください。

(SE：湯船から出る音)

(後ろ上、近い距離)

それでは、まずは髪をお湯で流しますね。

(SE：髪をお湯で流す音)

(優しい口調で) ご主人様の髪、相変わらず触り心地がいいです。小さい頃とあまり変わりませんね。

ボリュームは私と比べるなら少ない方でしたが、質感に艶やかさがあります。こんな髪質、女の子でも憧れるくらいですよ。

では、シャンプーを泡立てますね。

(SE：シャンプーを泡にする)

はい、できました。それでは髪を洗っていきます。目を閉じてください。

(SE：シャンプーの音)

ご主人様、坊主頭のことはまた覚えていますか？そう、子供の頃、髪を洗うのも嫌いだったので、お婆様が強引にご主人様を坊主頭にしたこと。あのあと、一週間もしょんぼりしていらっしゃいましたね、キキョウが慰めても効かないくらい落ち込んでいました。でも、それからはずっと髪の毛を大事にしていましたね、自分でもちゃんと洗うようになりました。

でも、坊主頭のご主人様か……私はもう一度見てみたいかも。あら、そんなに必死に抗議しなくとも、坊主頭のご主人様も結構可愛かったですよ？

しかし、こんなにいい髪の毛を切るのは、なかなか罪深いことですね。仕方がありません、坊主頭は諦めましょう。

はい、シャンプーはこれでおしまいです。次は、軽く頭皮のマッサージもやってみましょうか。

(SE：頭皮マッサージ、髪を擦る音、トントンの音)

頭皮マッサージを甘く見てはいけませんよ。ツボを知らなくとも、こうして指先で頭皮を擦ったり、叩いたりするだけで、シャンプーの効果を増進して、頭の血液循環にも効果があるんです。ご主人様のお仕事はストレスが溜まりやすいですし、休憩の時間には是非ご自分でも試してみてください。

もちろん、キキョウに任せていたいただいてもいいですよ。

でも、私に任せると、多分マッサージから耳かきに渡って、十分間の休憩が三十分になります。ご主人様の時間次第ですね。私としては、もちろんできるだけ長く癒して差し上げたいです。ご主人様の安らかな顔を見ると、なかなか手が止まりませんから。

はい、マッサージはここまでにしましょうか。それでは、シャワーでシャンプーを流します、目を閉じてください。

(SE：洗髪の音)

はい、ひと通り終わりました。ご主人様の髪はそんなに長くはありませんから、リンスの必要はありませんね。私の髪はご主人様のと髪質が近いんですけど、長くなると毛先がどうしても乾燥しやすいので、毛先だけリンスを使っています。

それで、どうですか、ご主人様？髪の毛から淡いシャンプーの匂いが漂ってくるでしょう？

「私に包まれたような感覚？」ふふ、なら、本当に抱きしめてあげましょうか、ぎゅううー

(右側、直近距離)

(囁き) こっちの方が、もっと気持ちいいですよね、後ろから抱きつかれて、胸板も私の腕に包まれて。

(ぼんやりと) ……好きですよ、ご主人様の体つき。
……少しだけ、肩と首筋を失礼しますね……

(肩と首筋に軽いキス)

ちゅっ、んちゅっ

(キスマードリブ 5秒)

あつ、ここは、少し強めに……(キスマークを残すため、強めで吸いつくように) ちゅっー

(物語を演じるように) これは、牙が失われた吸血鬼のお姉さんが、恋に落ちた人間の相手に送る、従順の証です。

なんてね。私も、すこしラノベを読みすぎたみたい、ふふ。

(囁き) そうです、キキョウのキスマークです、いけませんでしたか？
なら、もっと付けてあげましょうか……

(軽いキスと強めのキス、交互に行う)

ちゅっ、ちゅっ……ちゅっ、ちゅっ……

(アドリブ 30秒)

ここも、(強めのキス) ちゅー……

はあ一いっぽい付けちゃいました……心配しないでください、全部、服を着れば見えない位置につけました。

これで、二人だけの秘密になりましたね、ふふ。

(後ろ、近い距離)

さて、悪ふざけはここまでにしましょう。

次は……ご主人様、キキョウの髪をお任せしてもよろしいでしょうか？

(正面、やや近い距離)

それでは、私はここに座りますね。よろしくお願ひします、ご主人様。

(正面、背向け、近い距離)

手順から……まず最初はブラッシングのはずなのですが、それは入浴する前にもう済ませましたので、髪を流すことから始めましょう。

流し方に関して、手取り足取り説明する必要はありませんが、髪を流す際には、指の腹を使って弧を描くようにマッサージする方が、髪の汚れを取りやすくなります。と言っても、さっき私がご主人様にしたような感じで大丈夫ですよ。

「美容師さんみたい」？ふふ、私もただの受け売りなんですよ。シオンさんから学んできました。の方はプロですからね。

(SE：洗髪の音)

終わりましたね。次は、シャンプーの泡立てです。このシャンプーは結構泡が立つので、使う時の量はそんなに多くなくて大丈夫です。

(SE：シャンプーを泡立てる音)

できましたか？それでは、いよいよ髪を洗ってください。まずは頭皮や髪の付け根の部分を洗います。さっきと同じように、指の腹を使って、力を入れ過ぎず、弧を描くようにマッサージしながら、全体を洗っていきます。ほかの子たちに教える時、ここは念入りに「爪を立てないように」と注意しますが、優しいご主人様のことですから、信じてあげましょう。それでもともとご主人様の爪は短いので、大丈夫だと思います。

それでは、よろしくお願ひ致しますね。

(SE：髪を洗う音)

はい、力加減は大丈夫ですよ。ご主人様は本当にお上手ですね。まさか他の方にしてさしあげた経験もあるのですか？

それとも、もしかして長い髪が好きだから色々と調べてみたとか？

自分で実験するって……(心配そうに) いけませんよ、ご主人様、髪の毛は傷ついたら元に戻らないですから。気をつけてください。

でも、そうですかー、ご主人様はなかなかのマニアックですね。でしたら、今後は髪について、キキョウがピシッと教えてあげましょう。

あっ、もっといいことを思いつきました。週末、館でメイド講義があります。髪に関しての話題も出てくるんですよ、髪の洗い方やケアについてはもちろん、散髪や簡単な髪型の作り方の講義もあります。でも、「ご主人様がいらっしゃる」ってメイドたちが知ったら、みんな落ち着かないかもしれません。そうですねー、女装をして、こっそりと参加しよう。

(SE 停止)

そう、女装です。ご主人様は体型がスリムの方ですし、化粧をすればきっと似合いますよ！ 教室の後ろに座っていれば、バレる心配もありませんし、どうでしょう？

(わざとらしい) ご主人様の女装を見たいだけって、一体なんのことかしら？ 仰ってる意味がわかりません、ふふ。
あくまでも、目的は変装ですよ。

(SE : 髪を洗う音)

もう、わかりましたよ。女装はナシ、私服で行きましょう。
でもご主人様、さっき、一瞬迷われましたよね？ ふふ。

洗い終わりましたみたいですね。続けて、毛先に泡を馴染ませていきましょう。毛先はダメージになりやすい部分ですので、できるだけ優しくお願ひしますね。
あと、髪が長いので、手ですくい上げる方が洗いやすいですよ。

(SE : 髪を洗う音・毛先だけ)

次はシャンプーを流します。シャンプーの流し残しは肌荒れなどの原因にもなりますから、最初と同じように、しっかり流していきましょう。特に耳の裏や、襟足あたりは流し残しやすいので、気をつけてくださいね。

(SE : シャワーで髪を流す音)

はい、ここまで、ご主人様の髪を洗う時の流れと同じです。でも、私の髪の場合は、もう一つステップがあります。

ご名答、コンディショナーをつけるんです。毛先だけに使いますので、少量でお願いしますね。

(SE : コンディショナーをつける音)

コンディショナーの使い方ですか？そうですねーみんなそれぞれですが、一般的にコンディショナーは髪にしかつけませんが、頭皮専用のものもあります。私の場合は、もともと毛先が纖細なので、秋や冬になると、乾燥や低温が原因でさらに傷つきやすくなりますから、コンディショナーで毛先をケアしているんです。

もちろんケアは髪を洗う時だけではなく、朝の支度の時だと、例えば椿油も使っていますね。ケアの効果は抜群ですし、見た目的に、油はもっと艶やかな質感を与えてくれます。一石二鳥です。

最後は、もう一度髪をすすいでいきましょうか。

(SE：髪をお湯で流す音)

全部終わりましたね、お疲れ様でした。

(正面、近い距離)

本当にお上手ですね、自分で洗う時より丁寧かもしれません。「手付きのなかに、愛情を感じます」、なんてね、ふふ。

さて、もう一度お湯に浸かってから、上がりましょうか。

(シーン転換：洗面所)

(SE：ドライヤーの音)

(正面、近い距離)

はい、乾きました。やはり短いとすぐに乾きますね。私はご主人様より先に上がったのに、未だに髪が少し濡れています。

ねえ、ご主人様、少し下を向いてください。

(正面、直近距離)

くんくん……ふふ、これで、髪の匂いまでお拭いですね。

ほら、ご主人様も私の髪をクンクンしてみて？

(囁き、誘惑するように)もちろん、触ってもキスしてもいいですよ……

(正面、背向け、直近距離)

あら、すぐに後ろから抱きついてきて……もっときつくても大丈夫ですよ？ほら、腰を回して、パジャマの下に腕を入れて、ぎゅーっと。

(SE：抱きしめる)

(猫なで声) んんー、そうです、お上手ですよ、ご主人様。

ひやっ、ふふ、ふははー

も、申し訳ありません、髪越しにご主人様の吐息がくすぐったくって。

(落ち着いた口調で) 甘えたいのですね……いいですよ、この後の添い寝も、キキョウお姉ちゃんと、好きなだけ、触れ合いましょう。

6 キキョウの言葉

(正面、正常距離)

今の時期になると、お風呂上りにパジャマ一枚だけだとやっぱり少し肌寒いですよね。早くお布団の中に入らないと風邪を引いてしまいますよ？

(SE：お布団に入る SE)

(左側、近い距離)

灯、消しますね。

またこの時間になりましたね、二人が一つのお布団を共有する時間、ふふ。

部屋の匂いが懐かしい？お気付きになりましたか。実は、お風呂の前に、お部屋で少しのアロマを焚いておいたんです。昔、ご主人様のお部屋の外はお花畠でしたよね。色々な花が咲いていて、二人で毎日のように遊んで……

(懐かしく) 時々、もう一度あの頃に戻ってみたくなります……私は新米のメイドで、ご主人様がまだ子供の頃。なーんにも心配せず、ただ館をあちこち探検していた頃……まだ一緒に眠っていた頃、ふふ。

(感傷に浸る) それから中高生時代と高校時代があつという間に過ぎ去って、ご主人様が大学に入学して、私がメイド長になって。お互いに苦労もストレスも、段々積み上がっていって……時々、不安になります。この先は、難しいことや煩わしいこときつといっぱいあります。私は、ご主人様に相応しい恋人になれるでしょうか。メイドでしかない私は、あなたの重みになるかもしれません……

(現実に戻る) あっ！申し訳ありません、夜になると、少しばかり弱音を……

(SE：強く抱きしめる)

(左側、直近距離)

あっ……ご主人様の……懐……

そ、そんなに強く抱きしめられたら、少しだけ苦しいです……

(SE：手櫛)

(左側、近い距離)

髪も……手櫛されて……

(小さい声で、ちょっとだけ拗ねる) もう、ご主人様ったらまた私を甘やかそうとしてる、キキョウがお姉ちゃんなのに。

「恋人だから」って、ご主人様もずるいじやありませんか……

(小さい声で独り言) うう……いつもの立場と真逆ですし……でも、ご主人様の懐、暖かくて気持ちいいです……ゴニョゴニョ……

(暫くの沈黙)

(ちょっと暗く、小さい声で) ごめんなさい、ご主人様……普段ならこんな失態は一

「弱音を吐いてもいい」ですか？でも……

「私の役にも立ちたい」って……何を仰っているんですか、ご主人様がここにいるから、従者である私もここにいる。ご主人様の存在自体が、私の支えなんですよ。

そういう意味ではなくて？

「キキョウも癒してあげたい」……

(優しい口調で) 左様ですか。ふふ、ご主人様のその気持ち、承りました。なら、もっと我儘を言ってもよろしいでしょうか？

(甘える口調で) 髪を、もっと触ってください……

(SE：手櫛)

(ぼんやりと) ご主人様の手櫛、どうしてそんなに気持ちいいのでしょうか……なんだか魔法みたいで……

ねえ、ご主人様、これは、キキョウの特権ですね。ほかの誰にもすることのない、私にだけ……

ありがとうございます……もう、このまま溶けてしまいそう……

(ぼんやりと) ご主人様とこういう形で同棲できるのも……別館にいる時は全然思わなかったことです。

あの3ヶ月間、ご主人様が色々と大変だったのはだいぶ想像できます、ですから帰ったら真っ先にご主人様を癒してあげようと思いました。

(幸せそうに) でも今は、ご主人様も私を癒してくださろうとしている。ふふ、これは、従者冥利に尽きるというべきでしょうか……

(SE：主人公の顔を触れる)

(小さい声で) 何度でも言わせてください、ご主人様のこの優しさが、大好きです。口先だけの「優しさ」なら、それは誰にでもできることです。でも、ご主人様はその「優しさ」のために、いつも努力しています。自分がつらくてつらくて仕方がないのに、第一に自分の周りの人に気を配っていらっしゃいます。だから、ご主人様の優しさには、人を束ねる力があるんです。少なくとも、この優しさは私をご主人様の隣に引き寄せたのですよ、ふふ。

経緯を聞きたいのですか？もちろんいいんですけど、ここだと、少しだけ遠いかもしれません、この距離だと聞き取りづらいでしょう？もっと私の方へ寄ってくださいませんか？

(SE：布団の中での移動、小さめ)

……もう、ご主人様は本当に恥ずかしがり屋さんなんですから。私が言っているのは、先のように一

(SE：抱きしめる、耳を優しく擦る)

(左側、直近距離)

(小さい声で) この距離だと、耳を撫でながらでも問題なく聞こえるでしょう？ふふ。

(暫くの沈黙)

(ポツリと、小さい声で) お爺様の……お葬式の時です。

最初にお爺様が亡くなったと聞いた時、頭の中では理解できませんでした。館に来てから十年、使用人とはいえ、お爺様とお婆様は、ご自分の孫のように私に接してくださった。孤児だった私が、十年にも渡って、やっと「家族」というものを理解できた途端に、お爺様が亡くなった。

あのいつも笑っていたお爺様に、もう会えることはありません。顔を合わせることすらできなくなってしまった。十年間、いつも私のことを心配してくださっていたお爺様が。

泣きたくなつた。でも、なぜか、泣くことができなかつた。頭の中に思い出が詰まって、ぐるぐると回つて……。

そこでふと思ひ出しました。私の「家族」の中には、私よりも年下で、私より悲しむ子がいると。

その子のことが心配で、私は彼の元へ駆け出しました。

ドアをノックして、彼の部屋に入りました。涙の跡さえ拭えていない彼が、私を見て、何と言つたかわかりますか？

「キキョウお姉ちゃん、僕とお婆様はどんな時でも、お姉ちゃんの家族ですよ」って。私より悲しいのに、私よりも誰かの胸の中で泣きたいはずなのに、私を見て言った最初の言葉は、私への慰めだった。

あのあと、その子の肩でわんわん泣いたことだけを憶えています。

それから、私は決意しました、「この人に尽くしたい」と。それが、常にご主人様の側にいるキキョウからの言葉です。

(優しく囁き) ねえ、ご主人様、私たちのこと、まだお爺様に報告していませんね……明日、一緒に行きましょうか？

はい、かしこまりました。

(暫くの沈黙)

(優しく囁き) あっ、大きなあくび。今夜はもう寝ましょうか？ご主人様に抱きついたまま、朝まで。

はい、おやすみなさいませ。良い夢を見られるように。

(呼吸音)

(ゆつたりと囁き) ご主人様……キキョウはずつと、あなたの側にいますからね。いつでも、どんな時でも。健やかなる時も、病める時も、喜びの時も、悲しみの時も、富める時も、貧しい時も。あなたを愛し、あなたを敬い、あなたを慰め、あなたを助け、その命ある限り、真心を尽くすことを、この館を以て、ここに改めて誓います。だから、どうか私から、離れないでください……末永く、よろしくお願ひします……

愛していますよ、私のご主人様。

(キス) ちゅっ。

7 おまけ

(正面、背向け、正常距離)

(小さい声で) お爺様、こうしてキキョウは、無事にご主人様と結ばれました。心配しないでください、私達なら、大丈夫です。どうか、私達を見守っていてくださいね。

(正面、正常距離)

さあ、行きましょうか、ご主人様。

(SE：二人の足音)

(SE：車のドアを締める音)

(SE：エンジン音)

(シーン転換：車内)

(右側、やや近い距離)

ねえ、ご主人様、一つ尋ねたいことがあるんですが……

どうして、あの日、あの場で私に告白したのですか？

「お見合い」？ 「お見合い」でなにか起こったのですか？

お相手……？ 申し訳ありません、意味が……

(驚く) えっ！？ お相手はナデシコさんですか！？ で、でも、あの方にはずっと前から意中の方が……

断れたあと、ナデシコさんの説教も受けたのですか？

(苦笑い) あははーそれは、確かにナデシコさんらしいですね。

でも、それなら「お見合い」をした意味は……

(悟る) ま、まさか、お婆様が……

(ため息) はあー

ご主人様、私達、まだダメダメなんですね。

ふふ、これから、一緒に頑張りましょう。